

道元さまは、日本の曹洞宗では初代ですので、第一代目を表す「高祖さま」とも呼び、道元さまのお生まれに因み、一月二十六日には高祖降誕会が営まれます。

道元さまがお生まれになられたのは、西暦一二〇〇年一月二十六日といわれています。

ではなぜ、高祖降誕会を我々は営むのか、考えてみましょう。

お誕生会みたいなものだから？ いえいえ、当時は誕生日を祝うことはそんなに一般的ではありませんでした。誰でも毎年元旦に一歳ずつ年齢が上がるという、数え年の習慣からも、生まれた日にはこだわっていなかったと考えられます。

それなのに道元さまのお生まれを祝うのは、道元さまの仰る「お釈迦さまから正しく伝わってきた教え」を示して下さったことへの感謝から始まり、仏教と出会った「縁」や道元さまを高祖さまと祀る「縁」などを思う、良い機会であると考えられるべきではないでしょうか。

道元さまが著された『学道用心集』という修行者の心構えを示された書物の中に、

「仏教の教えを求め、修行に生きるものは、まず無常を觀しなければならぬ。無常を觀じたならば、時を惜しんで修行に励むべきである。名誉や利益を求めると起るはずもない。」と厳しい言葉を残されています。

そして、「もし名誉や利益を求め、我欲が起こったならば、心静かに坐禅をして自分自身を見つめ直しなさい。」と坐禅の大切さを示しています。

単に日本の曹洞宗の初代だから、御生誕をお祝いするのではなく、真摯な姿勢で厳しい修行を続けられた道元さまを慕い、ともすれば社会の中で、名誉や利益を求めてしまう自分自身を反省したいものです。そして、道元さまが示された「お釈迦さまから正しく伝わってきた教え」を守り、坐禅に親しみ私たちの生き方の指針にしたいものです。

道元さまを高祖さまと祀る「縁」を大切に、道元さまがお生まれになった、高祖

降誕会に因み、名誉や利益を求めることを嫌われた道元さまの姿勢を学び慕う機会にしたいものです。

- 終 -